

## 感謝報告

いずみの活動をおぼえて祈りとともにたくさんのご支援を頂き、心から感謝申し上げます。日本基督教団東北教区放射能問題支援対策室いずみへの指定献金をご報告いたします。記載落し・ミス等ございましたらご連絡ください。(敬称略・順不同・特別記載のない団体は教団の教会・団体です)

### \* 個人献金

田中暉彦、高戸佐和子、内田淑子、大越美穂、本田敏夫、赤兎正清、唐牛健三、丹波望、西島麻里子、岡田恵美子  
(合計103,000円)

### \* 団体献金 ( )内は回数

北海教区、御影教会(4)、長岡京教会、名古屋中村教会、旭川星光伝道所  
(合計111,691円)

以上、感謝をもってご報告させていただきます。ご支援ありがとうございます。(2015年5月27日～2015年8月31日)

いずみの活動は国内外の基督教支援活動によって支えられています。この活動を続けていくために皆様のご協力をお願いいたします。いずみへの献金は下記専用口座をご使用下さい。

### ご支援のお願い

送金先金融機関 ゆうちょ銀行  
口座番号 02220-5-137681  
加入者名 日本基督教団東北教区  
通信欄に「放射能問題支援対策室いずみ指定献金」とお書きください。

## いずみの会

### 新規入会

「いずみの会」は、「放射能問題支援対策室いずみ」の活動に賛同し、その活動を支えて下さる会員を募集しております。年会費は、正会員(一口3,000円)、賛助会員(一口1,000円)、団体正会員(一口5,000円)です。「いずみの会」入会専用の振込用紙がございますので専用振込用紙にてご入会下さい。

### 年度更新(会員継続のお願い)

2015年度の会費納入をお願いします。2014年度に加入され、今年度(2015年4月1日～2016年3月31日)の会費納入がまだの方は継続をよろしく願いいたします。いずれもお問い合わせは、放射能問題支援対策室いずみの会事務局(放射能問題支援対策室いずみ)までご連絡ください。

\* 2015年 8月31日時点での「いずみの会」会員数

正会員 68名 賛助会員 44名 団体正会員 8団体

運営委員長 布田秀治(いずみ愛泉教会)

運営委員 明石義信(常磐教会) 小林休(鳴子教会)

保科隆(仙台東一番丁教会) 最上千絵子(仙台北教会)

室長 保科隆(仙台東一番丁教会)

顧問 篠原弘典(原子核工学専門家)

スタッフ 後藤重雄 渡辺広衛 服部賢治 笠松絹子

## 日本基督教団東北教区 放射能問題支援対策室いずみ

UCCJ Tohoku District Nuclear Disaster Relief Task Force "IZUMI"

〒980-0012 仙台市青葉区錦町1丁目13-6

TEL/FAX 022-796-5272

メールアドレス izumi@tohoku.uccj.jp

ホームページ <http://tohoku.uccj.jp/izumi/>



# いずみ

題字 丹治正雄氏

## 木村真三さん講演会 Part II「ベラルーシ・ウクライナと飯舘村」

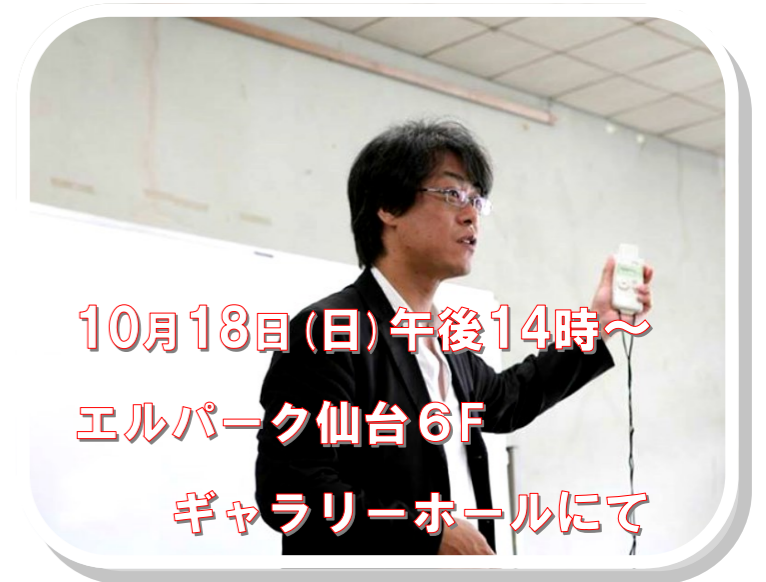
いずみでは、10月18日(日)午後14時から、仙台市青葉区一番町4丁目にあるエルパーク仙台6Fギャラリーホールにて、放射線衛生学者であり、獨協医科大学准教授の木村真三さんによる講演会を行います。木村さんは、今年6月から、12カ月間の予定でチェルノブイリ原発事故被災地、ベラルーシ共和国とウクライナ共和国、2カ国の連続調査に入っておられます。現地と日本を行き来されているお忙しい中、仙台においていただき、この間の現地調査報告などについてご講演いただきます。

福島原発事故直後、木村さんは環境放射線測定草分け的研究者である岡野眞治さんをはじめとする科学者らといち早く被災地域に入り、土壌や大気等のサンプリング調査・分析を共同で行い、深刻な放射能汚染の実態を科学者達の個人ネットワークで明らかにされました。その様子が、2011年5月、NHKETV特集『ネットワークでつくる放射能汚染地図』で放映され、大きな反響を呼びました。

この講演会には、福島県飯舘村村民の伊藤延由(いとうのぶよし)さんもゲストにお呼びしてお話を伺います。福島県内やチェルノブイリ汚染地域などの調査活動を継続・意欲的に取り組んでおられる研究者の木村さんの視点と、この事故によって、甚しく汚染され避難生活を余儀なくされた伊藤さんのお話しがどのように交差しているのか貴重なお話しが伺えます。入場無料です。お誘いあわせの上、どうぞご来場ください。

去る4月25日(土)、いずみでは木村真三さん講演会「放射能汚染地図の“これまで”と“これから”」を行いました。136名という、会場に入りきれないぐらいの来場者の方がおいでいただきました。ご来場ありがとうございました。

ただ、時間が足りず、この時だけでは話さきれなかったお話しがあるそうです。この講演会では、難しいことを噛み砕いてお話ししていただきましたが、木村さんは福島県内をはじめとする、子どもたちにも放射能のことをわかりやすく教えておられます。パートIIのお話もご期待下さい。



10月18日(日)午後14時～  
エルパーク仙台6F  
ギャラリーホールにて

木村真三(きむらしんぞう)さん



前回講演 会場内の様子  
仙台市市民活動サポートセンターにて

## この4年間で振り返って～あるお母さんの気持ち～（2015年9月 寄せられた手記より）

私は宮城県仙台市在住の母親です。現在、自分なりの放射能対策をしながら2人の子どもを育てておりますが、日々の生活が心から安心だと思えることはありません。仙台は空間線量が比較的安く、考えすぎだと思われるかもしれませんが、子ども達の将来を思うと、やはり不安なのです。そして、東日本大震災、福島第一原子力発電所の事故が起こった、当時のことを思い出すと、4年過ぎた今も後悔の念で胸が苦しくなるのです。

### 【得体のしれない放射能との出遭い】

私は、あの事故が起きて初めて「放射能」というものに自分なりに真剣に向き合うようになった人間です。それ以前は〔私には直接関係ない問題〕と無関心でおりました。いえ、本当はもっと悪くて、新聞の広告等で、イメージキャラクターだった鉄腕アトムが「安全に処理しています」と説明するイラストを見ては、本当に安全なのだろうか？と疑問を感じていたのに、〔自分にはどうしようもないレベルの話〕と、それに気付かないふり、見ないふりしていました。そのため、事故が起こった当時、知識は乏しく、また、津波被災者のことを思えばわがままを言うてはいけなないと、放射能対策を後回しにし、子どもを買い出しや、知人への差入れ等に付き合わせ、散々被ばくさせてしまったのです。そして、取り返しがつかなくなった頃にやっと、放射能に関して考え始め、“どうなってしまおうのだろう” “子どもに何かあったら私の責任だ” という思いになり、大変怖くなりました。生まれて初めて経験する、得体のしれないものに対する恐怖感は本当に凄まじいもので、何をしたらよいか、という具体案を考えるよりも、まずはそれに負けないようにすることが、私がとらなくてはならなかった最初の対応でした。

### 【放射能の影響は未知数】

放射能とはどんなものなのか、人体にどんな影響を与えるのか、そして影響を少なくするためには何をしたらよいか、といった疑問に対する答えが自分の中に全くなく、“怖い”という思いをさらに大きく感じました。そこで私は知識を頭に入れるため、ネットでの情報収集や、読書、講演会参加などを行いました。特別に賢い訳でもない“普通のお母さん”の私が理解できる内容など、ごく限られたものではありましたが、少しずつ「放射能」に関することが分かってきました。けれど、「放射能」のことを知れば知るほど、その問題のとてつもない大きさにますます怖くなるのです。当時の私に立ち向かう術は見つけられず、何度も泣きました。それまでそうしてきたように、「大丈夫」ということにして逃げたくもなりました。

大きな問題に向き合うには、勇気と覚悟がいるものだと感じました。

### 【自分に精一杯できること】

放射能影響に関して、「専門家」と呼ばれる方々の意見は実に様々でした。それなのに一定の意見だけを重視し、「安全」であろうとする政府や行政の姿勢にも疑問を感じました。交通安全運動やインフルエンザの注意喚起は、小さな危険性にも注意を払って考えられているようですが、何故放射能に関しては真逆の対応をするのか、私にはよく分かりませんでした。子どもたちの今後のことを考えると、“あの時、気にしすぎだったね”と将来苦笑いすることになってもいい（むしろ、そうなればいい）、“念のため”という感覚で、そして、“放射能が人体にどんな影響を与えるのか、与えないのか、後になってみなければ分からないから、大丈夫と鵜呑みにしないで、自分にできることをしてみよう”と思ったのです。

それから今に至るまで、「これは買う、買わない」「食べない、食べさせない」「これはする、しない、させない」という様々な判断を日々積み重ねています。限られた食材の中で、毎日食事のメニューを考えています。ガイガーカウンターやシンチレーションカウンター、ヨウ素剤の購入、保養に出かけるといった事も行いました。保養というのは、空間線量の低い地域で過ごし、身体的、精神的な回復を図るものです。1番長い時には、夏休みの1ヶ月間を保養先で過ごしました。移住を考えたこともありましたが、実行には移せませんでした。先に述べた食材にしても、全てを安全と思える物で揃える事はできませんし、ひとつひとつの判断が正しかったのか悩むこともあり、正直嫌になります。そんな風に来る事、出来ないことはありますが、これまで無関心でいた自分の責任を思うと、向き合わなければいけないと感じ、今の私に出来ることをする、という考えを中心に毎日を過ごしています。



### 【汚染地域での暮らし～揺れ続けています～】

これまでに何度も「気にしても自分の力ではどうしようもない」「気にしていたら生活出来ない」という言葉を聞きました。それは今も変わらないか、むしろ増えたようにも思います。確かに、問題の根本的な解決が難しいこと、これまで通りの生活が出来なくなる不便があること、そして、自分の限界があることは事実です。こうすれば大丈夫という答えが確固たるものとして存在してはいないし、どちらを見ても不安になることばかりです。それならば、気にしないで生活した方がいいのだろうか？ニコニコ笑って免疫力を上げることが大切だって言うし・・・、と心が揺れることもあります。時間が経つほどに疲れも出て、最近では手を抜いてしまうことも増えました。注意や対策は絶対に必要なのだと思っているのに、それを継続することの大変さを感じています。

### 【放射能は何でも壊す】

私よりずっと、放射能に対する危機感が強く、様々な対策をしているお母さん方は沢山いらっしゃいます。一番心配な食べ物の管理は勿論、洗濯物を外に干さない方。給食の産地が心配で、お子さんにお弁当を持たせる方。学校のプールに入らせないようにしている方。長期休みを中心に、可能な限り保養へ出かける方。そういった方々と出会うと、仲間と出会ったように感じて嬉しくなり、勇気づけられます。

けれど、上手くいくことばかりでもなく、助け合っているつもりだったのに、いつの間にか互いが傷ついて距離を置いてしまうこともありました。放射能に対する判断や対応には個人差があります。対応出来ることも異なります。そのため、「あの人が危険だと判断している食べ物を、自分は子どもに食べさせてしまった」「私は金銭的に何度も子どもを保養に連れていくことが出来ない」というものや、「うちは夫が無関心で苦しいのに、あの人は協力してもらえて羨ましい」「うちの子どもだけ、甲状腺にのう胞が見つかった」など、同じように放射能に苦しんでいるが故に、新たに生まれるそういった感情が人間関係にも影響を及ぼしていくのです。放射能は本当に何でも壊していくのだと、ますます悲しく、くやしくなります。

### 【不安であることが否定されることの苦しさ】

「放射能」に関しての話は、事故後すぐの時から今に至るまで、タブーとするような雰囲気があります。あれはどうしてなのでしょう？私は映画にもなり世界的にヒットした、J.Kローリングの「ハリーポッターシリーズ」の主人公ハリーの宿敵、ヴォルデモートのことを思い出します。人々は恐怖のあまりその名を口に出来ず、「名前の言えないあの人」といった呼び方をし、小声で話します。そんな中でハリーが「ヴォルデモート！」とはっきりと呼び、ついにはそれを倒していく姿に、私も「放射能が！」と大声で話して歩きたくなります。

近頃では「復興」の名の下、「放射能」と口にするにはおろか、〔不安〕と感ずることさえも可笑しい事と思われているように感じます。いつも〔不安〕とストレスをどうコントロールするか悩んでいる身からすれば、「何もなかった」ように暮らす方が楽なのかも、という誘惑に流されそうな時もあります。

### 【最後に】

チェルノブイリ原発事故後、甲状腺がんなどの深刻な症状が多く表れてきたのは、事故の4年後からだそうです。事故から4年経った日本で、今後同様な事が起こりはしないだろうかと心配しています。

今もなお、放射線量が高い地域で生活を続けられている方々、避難生活を続けておられる方々、移住をされた方々、他にも沢山の方々が、それぞれの放射能問題に悩み、苦しんでいらっしゃるのだと思います。私の想像をはるかに超える苦しみの中におられる方も沢山いらっしゃるでしょう。胸が痛みます。苦しみが少しでも和らぎますよう祈らずにはられません。放射能問題に向き合い続ける方々の中に、私も加えていただき、共に歩んでいけたらと願います。

## 放射能問題支援対策室「いずみ」のはたらき

2011年3月11日以降、当たり前のことが当たり前でなくなってしまう状況は、4年半経った今も続いています。放射性セシウム137ひとつをとっても、半減期が約30年と長期間影響力が残ります。内部・外部被ばく線量を少なくしたり、情報公開など、必ずしも放射能対策が徹底されていない現状で、食材を扱う時、子どもを公園に連れて行く時、学校給食を安心して食べさせられない等、この間、一人のお母さんがどのようなお気持ちで過ごされてきたのか、寄せられた手記をご紹介します。「いずみ」は今後も放射能への不安や心配を抱かれています。寄り添い、活動して参ります。みなさまのご理解・ご支援をどうぞよろしくお願いいたします。